

# 藤岡古墳調べ

～白石古墳群のなぞ～

桂がや棟小学校

4年3組 8番

江原 和真

# ① 調べるきっかけ

三年生のときにお父さん弟で白石古墳群に行ったとき、大小様々な古墳があり、またいせ塚古墳のようにとく特な石室や、いろいろな形の古墳が数多く見られたり、さらに、七こし山古墳や白石いなり山古墳のような県内でも最大級の古墳を見て、感動しもっとくわしく知りたいと思ったからです。

# ② き問に感じたこと

(き問その1)

・この地区は白石古墳群といふはにかいにも大小2のきい上の古墳が未だにのこっています。なぜこの地いきにくまの古墳がそほいたのでしょうか。

(き問その2)

この地区には県内トップクラスの大かた前方後円墳である七こし山古墳(県内4位)や白石いなり山古墳(県内5位)があります。なぜこの地区に県内でもトップクラスの大きさの2きの古墳があるのでしょうか。

(き問その3)

この地区には伊せ塚古墳やほりこし塚古墳、佐平塚古墳のように石室がもようみ石室という手法で作られています。県内では、この地いきしか見られません。なぜこの地いきにこのような作りが見られるのでしょうか。



図1 白石古墳群の主な古墳 (藤岡市ウェブページ)



図2 伊勢塚古墳の模様積み (本人撮影)



### ③ 疑問に対するほくの予想(仮説)

- ・白石地いきは魚占川があり水もほう富で埴輪作る土のしつもよく、古墳作りに向いている土地だったのではないか
- ・実力のある王がたくさんいて、ヤマト王権とつながりがあったのではないか
- ・特別な石室を作ることのできる、技術者がたくさんいたからではないか

### ④ 調べて分かったこと

(1) 白石古墳群にある主な古墳と特ちょう

① 七こし山古墳 (6世紀前半・前方後円土墳) 国指定

**説明**  
 この古墳は6世紀代に作られた古墳としては、東日本最大級のもので、墳長は約150mで後円部には、全長20m近い横穴式石室が存在していることが明らかになり、墳丘の外がわには、二重のほりがめぐっています。かきの調さで出土した円筒埴輪は直径が40cmを超え高さも1mを超えるとても大きなもので、突帯が7条巡っていました。



図3 七奥山古墳出土 七条円筒埴輪 (藤岡市ウェブページ)



図4 七奥山古墳全景 (藤岡市ウェブページ)

②皇子塚古墳(6世紀後半・円墳) 県指定  
 直径31mの比率的な大きな円墳で高さは5.5mある。南東に開口する横穴式石室は現在見学できないが、せき道と石室の間に、もう一つ前室とよばれる部屋があり、細長い前庭が付いている。せき道から発見された単鳳環頭大刀の柄と首が出土しました。

③平井地区1号古墳(6世紀後半・円墳) 県指定  
 平井地区1号墳は皇子塚古墳の北がわに、つくられた直径30m高さ6mの円墳で墳丘は4たんどです。皇子塚古墳と同時期にきづかれた古墳です。古墳には家やたて円筒埴輪がならんでいました。北がわに開口するめがらしい横穴式石室は、きょうかいかんを加工した石材をつみ上げてつべられたものである。  
 また出土した副葬品の中で特に注目すべきものとして、<sup>しんとうそうたんぼう</sup>金銅装単鳳環頭大刀と、<sup>ぎんぞう</sup>銀象嵌<sup>せきとう</sup>首頭大刀という2本の装飾大刀があります。どちらもほぼ完全な形で見つかっており、埴輪などとともに一括して国指定重要文化財になっています。



図5 皇子塚古墳 (本人撮影)



図6 皇子塚古墳出土 金銅製単鳳環頭大刀の柄 (本人撮影)



図6 平井地区一号墳出土 金銅製単鳳環頭大刀 (藤岡市ウェブページ)



③伊勢塚古墳 (6世紀後から末・円墳(八角墳) 県指定  
 直径27mの円墳で横穴式石室を持っています。この石室の左右の  
 かへには大小の河原石を組み合わせた「も様積」と呼ばれる積  
 み方が見られます。このも様積石室はふじ岡とこの周辺の一部地い  
 にはしか見られない特殊なもので、市内にもも様積石室の古墳は  
 数々ありますが、中でも最も整一で美しいものです。

(2)猿田支群

平井村537号古墳、なべ塚古墳、ふじ岡市21号墳などがのこっ  
 ています。ほとんど未調査で、平たれていて、資料やテータはありませ  
 んでした。

(猿田埴輪かまあと)

魚占川流いさの白石古墳群、猿田支群内にあり、かまあとのすぐ脇まで  
 古墳がつくられています。かまは魚占川と猿田川にはさまれた台地  
 の両がわでかくにんされています。周辺にはいくつもの住居いせき  
 があります。せこし山古墳にならべられた埴輪は、この猿田かま  
 つくられていたことが分かっています。

(3)いなり山支群

①白石いなり山古墳 (5世紀前半・前方後円墳) 国指定  
 白石いなり山古墳は全長約155mで、墳丘は3たんと明らかになりました。  
 1933年に発掘調査が行なわれ、後円部2つのまいろうし設が見つかり  
 ました。ここからは、刀やかがみなどが出土しました。また墳ちゅう部からは  
 家がた埴輪が出土しました。  
 この古墳は、墳丘をより大きく見せることで当時の人々に古墳を「他者へ見せ  
 る」ことを強くいしめたということがうかがえます。



②十二天塚古墳 (5世紀前半・円墳)

直径22mほどで白石いなり山古墳のすぐ北がわに作られた古墳です。横には十二天塚北古墳があります。古墳の場所や時期が近いため白石いなり山古墳を強く意識してつくられたと考えられています。以前は長方形墳や方墳と判定されていましたが、2019年のレーダー探査の結果、円墳であることが明らかになりました。

(4) 下郷支群

①堀越塚古墳 (7世紀はじめ・円墳) 横穴式石室 開口

大きき直径25m高さ2.5mの円墳です。墳丘の東がわは宅地によってけずり取られています。主体部は南西に開口する横穴式石室で、玄室とせみ道の一部がそん在しています。

②萩原塚古墳 (前方後円墳) 横穴式石室 開口

龍泉寺うらにある前方後円墳で近くの白石二子山古墳(消滅)とほぼ同じ時期に作られたとあったがあまりデータはありませんでした。

③佐平塚古墳 (円墳) 横穴式石室 開口

下郷支群を構成する古墳の一つで直径11m高さ2mほどの円墳で別の読み方では平井地区36号墳とも言われています。この古墳もあまりデータがありません。



図8 下郷支群「佐平塚古墳石室」 (本人撮影)



図7 下郷支群「堀越塚古墳石室」 (本人撮影)



# 5考まつ

・七こし山古墳・白石りなり山古墳のように  
 大きな古墳はヤマト王権とつながりか  
 あるのではないかしと思ひ、七こし山古墳の  
 円筒埴輪(関西の方でよく見つかる)などが  
 あり古墳の大きさは、100mをこえるりっおな  
 古墳があるから、こう思いました。

・また、猿田埴輪がまあどか近くにあるので、  
 埴輪の生産がかんたんであることが  
 分かりました。

・高松市の山上ひ(古墳)には佐野屯倉  
 とお定されている、天皇の土地というこ  
 を表しています。その屯倉をかん理する  
 人のはか、鮎川と猿田川があり水もほ富  
 などで支配者の実力があつたと思ひました。

・特別な石室  
 この中のも様々積み石室は県内でもこの地い  
 しかなり石室でとくに下郷支群に見られま  
 す。特別なまじゅつがなりと、むあかしいので  
 こういふまじゅつ者がいたのだと思ひました。  
 この石室は、ふじ園から埼玉県見玉郡  
 にかけて見られるこの地いきにしか  
 見られない特別な石室と分かりました



図9 山上古墳 (本人撮影)



図10 白石稲荷山古墳の周辺環境 (Google Map から)



図11 埼玉県本庄市 「秋山古墳群-庚申塚古墳」 模様積み石室 (本人撮影)

# 6 分からなかったこと

## ① 埴車輪を作る土のしつ

かまあとでたくさんの埴車輪が作られたのは分かったのですが、その埴車輪の土についてのことがあまりよく分からなかったため、次は土のことについて調べてみたいと思います。

## ② 支群について

特に猿田支群のことがよく分からなかったです。今度は資料やデータなどを集めて白石古墳群との関係をもっと詳しく調べてみたいと思います。

# 7 感想

はくは前に来た時はあまり白石古墳群についてよく分かっていなかったのですが、この勉強でたくさんのお話が知れてとても楽しかったです。支群についてはよく分からなかったのですが、とても古墳がたくさんあって古墳作りがさかんな地이었다のだと分かりました。特別な石室については、地いきにしかない石室があることがよく分かりました。また、白石いなり山古墳の近くにある十二天塚古墳はなにか関係があるのではなにかと考えました。このような大きな七こし山古墳の円筒埴車輪は関西の方で見られると知ってなにかつなかりを特たのか考え、とてもすこしいものだと分かりました。このような文化財をのこして次の世代へのこしていくことが大切だと分かりました。

# (参考文献)

「群馬の古墳物語〈下かん〉」(石島 和夫、上毛新聞社)

「群馬古墳探訪(群馬県)」

「群馬県立歴史はく物館第99回企画展 集まれぐんまのはにわたち」(群馬県立歴史はく物館)

ふじ岡市ウェブページ

「群馬県古墳系愈らん」(群馬県教育いんげん)